

2024

 日本食品化工株式会社

中期経営計画 2022-24年度

中経 2024

Contents

01	中経策定にあたり	02
02	中経2024の位置づけ	03
03	外部環境の変化	04
04	課題認識	05
05	基本方針	06
06	全体指標	10

中経2024

01

中経策定にあたり

当社は、長期的な観点から想定される社会の要請に対し果たすべき役割を整理した上で、2030年の会社の在り姿として、「長期経営ビジョンNSK2030」を策定しました。ビジョンでは、でん粉・糖の枠組みにとらわれず、新たに「ソリューション」と「プライマリー」の2分野を両輪としたプロダクトポートフォリオを定義しています。



中経2024

02

中経2024の位置づけ

中経2024は、長期経営ビジョンNSK2030の実現に向けたフェーズ1として、着実に高みへと前進するための土台を再構築する「体制強化期」と位置づけています。



中経2024

03

外部環境の変化

当社を取り巻く外部環境は、消費者ニーズの多様化、生活様式の変容、社会的要求のさらなる高まり等、引き続き変化していくと想定しています。

想定される主な環境変化

<h4>食の高度化・多様化</h4>  <ul style="list-style-type: none">▶ より豊かな食生活ニーズ▶ 味・食感・簡便性等の嗜好の多様化	<h4>健康意識向上</h4>  <ul style="list-style-type: none">▶ 食における健康志向・糖質オフの拡大▶ 免疫調節機能への関心	<h4>低・脱炭素社会への歩み</h4>  <ul style="list-style-type: none">▶ バイオマス原料へのシフト▶ 環境負荷リスク(炭素税等)	<h4>法規制等の改定</h4>  <ul style="list-style-type: none">▶ 酒税法改定(2023年/2026年)▶ 物流2024年問題▶ 糖価調整制度の見直し等
<h4>企業統治トレンド</h4>  <ul style="list-style-type: none">▶ サステナビリティ重視	<h4>アジアの経済動向</h4>  <ul style="list-style-type: none">▶ コロナ禍で停滞するも、緩やかな回復	<h4>新型コロナウイルスの影響</h4>  <ul style="list-style-type: none">▶ 生活スタイルの変容、衛生意識の高まり▶ 外食等の需要変動	<h4>デジタル化の加速</h4>  <ul style="list-style-type: none">▶ 生産、物流等、多分野へのDXの浸透

中経2024

04

課題認識

外部環境の変化も踏まえ、当社が目指す「あるべき姿」を定義しました。
中経2024の基本方針や戦略を策定するにあたり、現状とのギャップを課題として抽出しています。



中経2024

05

基本方針

「あるべき姿」の実現に向け、ソリューション事業、プライマリー事業の2分野を両輪として企業価値の向上を目指します。本中経期間中に、その土台を築き上げるため、人材育成や環境への対応等、経営基盤の整備も図っていきます。

新たな領域・未来を切り拓く ソリューション事業

ソリューション提供機能の強化

- ▶ 規模的成長を実現する仕組み構築
- ▶ 新たな主力製品の創出
- ▶ 新市場の開拓

⇒ 05-1

食・生活の根底を支える プライマリー事業

プライマリー事業の収益安定化

- ▶ 相場に左右され難い安定した基盤づくり
- ▶ コスト競争力の強化
- ▶ 環境負荷低減への取り組み

⇒ 05-2

体制強化



経営基盤の整備

- ▶ 事業の発展に繋がる土壌づくり
- ▶ DX推進

⇒ 05-3

中経2024

05-1

ソリューション 提供機能の強化

生活・社会・環境の観点より今後ニーズが高まる領域を特定し、経営資源を集中。当社の強みを活かした価値を提供し、海外市場も視野に入れた事業展開を推進します。

方針

- ▶ 規模的成長を実現する仕組み構築
- ▶ 新たな主力製品の創出
- ▶ 新市場の開拓

施策

▶ 社内体制の再構築

⇒将来的な社会課題や持続的ニーズを先取りし、投資・商品開発・市場開拓に繋げていける体制を再構築します。

▶ 重点領域へのリソース集中

⇒「食の高度化・多様化」「未病」「炭素循環」を重点領域として経営資源を集中し、機能性素材の開発・提供を推進します。

▶ 海外市場の取り込み

⇒AMSCO 事業^(*)を中心に、海外市場における販売規模の拡大を進めていきます。

※タイに拠点をもつ、タピオカ加工でん粉の製造・販売事業



食の高度化・多様化



再生可能素材



海外市場の拡大

プライマリー事業の 収益安定化

生活必需品の素材を提供する企業として、社会からの信頼に応える供給体制を構築していきます。

方針

- ▶ 相場に左右され難い安定した基盤づくり
- ▶ コスト競争力の強化
- ▶ 環境負荷低減への取り組み

施策

▶ 安定した経営基盤の構築

⇒安定した原燃料調達と製品供給に努め、相場に応じた製品価格の設定を通じて経営基盤の強化を図ります。

▶ 生産・物流の最適オペレーション

⇒中長期計画に基づく設備更新・補修管理とともに、2工場体制を活かした効率的な生産・物流体制を実現します。

▶ 環境負荷の低減

⇒生産工場のボイラー更新と最適操業により、CO₂排出量のさらなる削減に努めます。



相場に応じた製品価格設定



計画的な更新・補修



CO₂排出量の削減

経営基盤の整備

サステナビリティ経営を基盤に据え、人材育成や環境への取り組みについても、積極的に経営資源を投入していきます。

方針

- ▶ 事業の発展に繋がる土壌づくり
- ▶ DX推進

施策

▶ 組織の一体感の深化

⇒ビジョン・戦略の浸透を図るとともに、会社目標の達成に向けた従業員一人ひとりの役割や指標を明確化し、ビジョンへの共感の下、組織力のさらなる向上を目指します。

▶ 従業員充実度の向上

⇒コンピテンシーを意識した人材育成の拡充を図るとともに、誰もが働きやすい職場環境の整備に努めます。

▶ DXの加速

⇒事業モデルの変革に向けて、デジタルへのシフトと、それに繋がる業務プロセスの改善を推進します。



ビジョン・戦略の浸透・共有



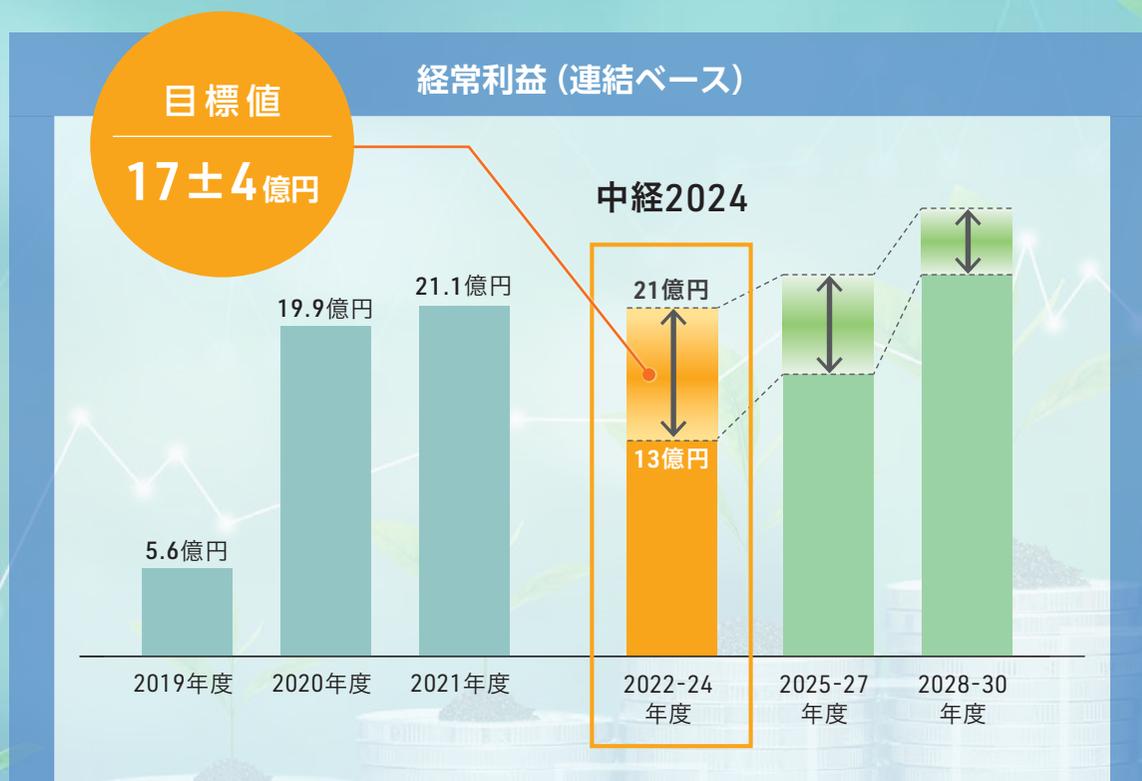
人材育成の強化



デジタルの活用

全体指標

ソリューション提供機能強化により収益のトップラインを高めつつ、プライマリー事業の安定・強靱化により利益の振れ幅の抑制に努めます。



目標値について

原燃料相場のボラティリティを受けやすい収益構造からの改善を図り、中経単位で利益の振れ幅を小さくしていくことを目指します。

中経2024では、単年度で17 ± 4億円を目標としています。

重点投資について

設備更新・補修の長期的マネージの下、成長分野に繋がる積極的な投資を推進します。

重点投資 30 億円

人材育成

設備導入

研究開発

DX推進

等

本資料に記載されている将来の見通しに関する記載は、本資料の作成時点での当社の判断によるものです。その情報の正確性を保証するものではなく、実際の業績等の成果については、さまざまな要素により記述と異なる場合がございます。また、内容については今後予告なしに変更されることがあります。なお、本資料利用の結果発生したいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。